

## 令和3年度指導教諭による「授業力向上講座」①②

本年度も指導教諭の優れた授業及び解説・講話、実技講習指導等を広く公開し、授業改善、指導力向上等を図る講座を開設しました。今号では、2つの授業力向上講座を紹介します。

① 8月24日(火) 奥州市立水沢中学校 第3学年  
国語 佐藤 明子 先生  
授業：状況の中で「挨拶—原爆写真によせて(石垣りん)」

### 1 授業参観

詩「挨拶」の中で使われている特徴的な表現や言葉に着目させ、作者の表現意図や表現の効果について考えたことを、生徒同士の交流を中心



を、生徒同士の交流を中心  
に深めていきました。その際、当時の時代背景に関わる資料等を提示することでより作者の表現意図を考えることができるようになりました。終末では、生徒一人

一人が、作者の表現意図や表現の効果について考えたことを中心に、詩「挨拶」から受け取ったメッセージを、自分なりに意味付けをしてまとめていきました。言葉や表現から受けるイメージを大事にしなが、そのイメージについて交流を通して広げたり、深めたりする学習活動を充実させることで、イメージの広がり  
に気付かせ、詩を読む楽しさにつなげる授業展開でした。

### 2 説明・協議

「詩の授業はおもしろい！」と、生徒が感じる詩の授業の進め方を視点に、参加者の日常の実践をもとにアイデアや課題点を交流し、今後の指導につなげていきました。

### 参加者の声(一部抜粋)

- ・「詩っておもしろい。」と思わせるような授業を行っていくために、今回の研修会での学びを目の前の子どもたちに還元できるよう努めていきたいと思ひます。
- ・生徒たちとのやり取りや、教材も含め、さまざまな準備や日々の授業の中での耕しが多くあることを学びました。
- ・詩の指導の難しさを感じるとともに、学ばせるために大切なもの、指導者として押さえておかなければならないことについて考えさせられた授業でした。

### 佐藤先生の授業から学ぶ詩の授業のポイント!



○詩の内容や表現技法の理解に留めず、言葉や表現から「何を感じるか」「なぜそう感じるのか」等、イメージを大切に授業を行うこと。

○考えたことや感じたこと等について、交流を通して広げたり、深めたりする学習活動を充実させること。

② 9月1日(水) 奥州市立水沢小学校 第3学年  
書写 大坂下 勝江 先生  
授業：毛筆指導「はらい」

### 1 授業参観

「左はらい」と「右はらい」のポイント(原理・原則)について、筆圧の変化や穂先の通り道が上向きであることを、動画や実物投影機で視



覚的に捉えさせていきました。練習では、筆圧を実感させるための「とん」「だんだんすうっ」等の「合言葉を使わせたり、子どもの手の平を筆に見立てて、筆

の上下の動きを捉えさせたりしながら、ポイントに沿って書くことができるようにしました。授業後は、硯に残った墨の処理や大筆の洗い方等のポイントの指示により、どの子どもも短時間で片付けました。「はらい」の書き方の(原理・原則)を子どもに気付かせながら、ワークシート等の段階的な活用により、できる喜びを十分に味わわせる授業展開でした。



### 2 説明・協議

学習指導要領改訂の内容や、片付けや道具の扱い方、筆の持たせ方等、日常の書写指導の基礎的な指導の仕方について確認しました。

### 参加者の声(一部抜粋)

- ・授業中に見せていただいた様々な技、自分も擬音化等、同じようなことをやっていたのですが、より系統立てた考えに基づくきめ細かな指導の仕方が大変勉強になりました。
- ・「分かった!」「なるほど!」と気付く場面が多くあり、ポイントを子どもに気付かせる指導の大切さを実感しました。
- ・教師が実際に書いてみせるだけではなく、大型電子黒板を使い、筆の運びを別角度から見せることで、子どもたちの理解につなげていたのが勉強になりました。

### 大坂下先生の授業から学ぶ書写の授業のポイント!



○「とん」「ぐうとおさえて」等の合言葉や動画等を用いて、筆圧の変化や穂先の向き等のポイントを実感的に気付かせること。

○練習・批評の場面では、学んだポイントを生かすために、ワークシートや練習用紙を段階的に活用させ、児童にできる喜びを十分に味わわせること。